

生物暦 Vol.15

～いきものこよみ～

国立環境研究所 生物季節観測研究チーム 2026年8月7日発行

1.ごあいさつ

調査員の皆様、いつも生物季節モニタリングにご協力いただき、ありがとうございます。

はじめに、この度の熊本地震により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

今回のニュースレターでは、名古屋大学博物館での”誰でも参加できる”生物季節モニタリングの取り組みをご紹介します。名古屋大学博物館では2022年からアンズを観測されています。



2. 博物館における市民参加型モニタリングの実践

2021年の気象庁による生物季節観測の見直しをきっかけに、国立環境研究所では市民とともに生物季節を記録する「市民参加型モニタリング」の取り組みが始まりました。名古屋大学博物館もこの考え方に賛同し、当館敷地内のアンズの木(図1)を対象とした開花・満開観測を始めました。博物館には、幅広い世代・立場の人々が日々訪れます。この「人が集まる場」という特徴を生かせば、一人の観測者だけではなく、多くの人と一緒に季節の変化を記録できるのではないかと考えたからです。



図1 標本木とした当館敷地内のアンズの木。

2-1. 誰でも参加できる仕組み

「市民参加型モニタリング」は、専門知識や継続的な観察が必要な活動というイメージから、参加のハードルが高いと感じられることがあります。そこで当館では、誰でも気軽に参加できるよう、「モニタリング調査しながら、四季を愛でよう いきものこよみ：アンズ」の特設サイト (<https://ikimonokoyomi-num.webnode.jp/spring/>) を立ち上げました。アンズの開花状況はWEBアンケートからワンクリックで回答でき、「まだ開花していない」から「満開」まで、現在の様子を簡単に記録できます。

各段階には解説を添えているため、専門知識がなくても、花を数えながら観測を楽しめます。

集まった観測結果は、ほぼリアルタイムで可視化されます(図2)。そのため、実際に当館を訪れた人だけでなく、遠方から開花状況を見守る人も、季節の移ろいを共有することができます。

また、特設サイトには「『アンズ』について、語り合しましょう!」のコーナーを設け、アンズを見て感じたことや気づきを自由に投稿できるようにしています。

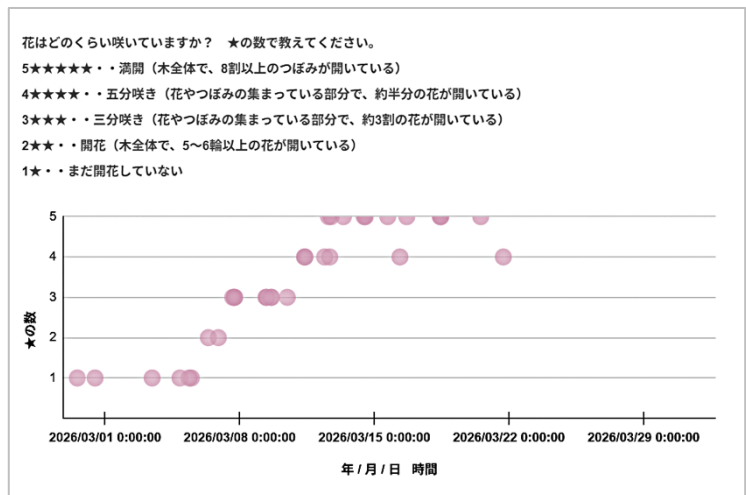


図2 特設サイトで公開している観測結果(2026年の記録)。

2-2. 観測を楽しむ工夫

市民参加型モニタリングを継続するためには、観測そのものを楽しめる工夫が大切だと考えています。そこで、開花の時期には毎年「お楽しみ企画」を実施しています（図3）。当館内のアンズ・ブースには「トレジャーボックス」を設置し、アンズに関するクイズの答えがダイヤルロックの番号になるなど、来館者が楽しみながらアンズに親しめる工夫をしています。



図3 「お楽しみ企画」のトレジャーボックスに挑戦する参加者。

こうした取り組みを続ける中で、開花状況だけでなく、さまざまな声も寄せられるようになりました。

「もう満開です！とってもきれいですよ。早く見にきてね！」

「メジロが花をついばんでおりました。」

「焦らなくて大丈夫。ゆっくりと、でも確実に訪れる未来を信じよう。」

寄せられた投稿には、一人ひとりが見つけた春の風景や、アンズの花から受け取った思いが込められています。観測データだけでなく、人々が感じた季節の記憶も一緒に残されていくことは、市民参加型観測ならではの魅力です。

2-3. 科学の記録と季節の記憶を残すため

当館では、市民参加型モニタリングを通して、科学の記録だけでなく、その年、その場所で人々が感じた季節の記憶も未来へ残したいと考えています。そのため、博物館という「人が集まる場」の特性を生かし、一人の観測者だけに頼るのではなく、多くの人が楽しみながら参加できる仕組みづくりを行ってきました。

また、博物館は、展示を鑑賞するだけでなく、身近な自然に目を向け、その変化を観察し、記録するきっかけを提供できる場所でもあります。季節の変化を楽しみ、その気づきを共有することは、一人ひとりの暮らしを豊かにするとともに、科学の記録と季節の記憶、その両方を未来へ残すことにつながります。

博物館での実践が、一つの事例として、それぞれの場所で市民参加型モニタリングが広がるきっかけとなれば幸いです。

（執筆：名古屋大学博物館 特任助教 梅村綾子）

3. 編集後記：国立環境研究所でもチャレンジ

博物館の来館者に観測してもらおうという仕組みは、とても興味深い取り組みです。こうした方法は、博物館だけでなく、公共施設などの多くの人が集まる場所を観測拠点として活用する可能性を広げてくれます。また、観測対象にちなんだ企画を組み合わせることで、アンズをきっかけに自然科学への関心を広げていく工夫も魅力的です。このアンズモニタリングに感銘を受け、私たちも国立環境研究所で誰でもできる観測にチャレンジしています（右図）。開花のように誰でも分かりやすい観測対象を選ぶことや、参加を呼びかけるタイミング、観測場所への分かりやすい案内といった工夫が重要だと感じています。

個人で、みんなで、地域で、生物季節モニタリングに参加する選択肢が増えることで、自然を見る目が少しずつ育まれていくことを期待しています。（担当：松島）



敷地内のツバキの前に観測報告サイトのQRコードの案内板を設置。

活動へのご意見・お問い合わせの窓口

E-mail: ccca_phenology@nies.go.jp

Tel: 0298-50-2375 担当：松島・西廣